



自然の中で感じることを大切に

～お泊り保育(そらぐみ)～

→三倉の風景



6月下旬に年長そらさんのお泊り保育があり、今年は“によろ”に誘われて、“によろのひみつきち”まで行ってきました。場所は森町の三倉。どんぐり保育園では初めて行く場所です。その中で子どもたちが一番楽しかったと声を揃えたのが川遊びでした。近年川遊びができる場所も少なくなり、今年も場所を悩みましたが、初めての三倉川、とてもいい場所でした。

日頃から虫捕りが大好きなそらさん、その姿は川に入っても同じです。川の隅でまず発見したのがサワガニです。石の下を覗いてみたり、「いたー！」と発見した仲間のもとにみんなで集まり夢中になっていました。また、川の中をじーっと眺めていると次に発見したのがおたまじゃくし。もっとよく見ると数匹ではなくたくさんいました。それを知るとさらに夢中になる子どもたち。その姿はキラキラ輝いていました。しかし、その横で反省している担任。何故かという、川遊び用の網や飼育ケースなど持っていくことを忘れてしまったのです。でも、忘れたことで得たこともありました。子どもたちが素手で生き物を捕まえたことにより、手にした生き物の違いに気づいたり、水の中で生き物を捕まえるには手の感覚を研ぎ澄まさないといけないのも子どもたちの大きな発見です。一見同じように見えるおたまじゃくしでも模様が違ったり、手足の生え方が違ったり、様々な違いを発見することができました。自分の身体を使って遊ぶからこそ、視覚、聴覚、触覚など五感を研ぎ澄ましていることが子どもたちの姿からよく伝わってきました。ある本に「自然の中で遊ぶことで五感を刺激することがあります。幼児期はその五感が未発達なので、感覚の発達を促すといわれています」と書かれていました。まさにそらさんたちの姿から感じたことです。

～やさいの発見(くまぐみ)～

畑のじゃがいもと玉ねぎがたくさん収穫できました。幼児クラスは早速、自分たちでカレーライスを作って食べました。給食のカレーもいつも人気ですが、この日は自分たちで作ったこともあり、さらにおかわりが止まりませんでした。くまぐみさんは“玉ねぎの皮むき”をしました。初めは上手くできず苦戦していたようですが、コツをつかむとどんどんむいていきます。その後、調理されて出てきた玉ねぎを見て発見したKくん。「しろよりうすい、とうめいじゃん！」と。むいたときは白色だった玉ねぎが調理されたことで透明に変化していることに気づいたのです。今まで数々の玉ねぎを給食でも食べてきていますが、自分で触れた玉ねぎだからこそその発見ですね。その後は皮を使って色水にも挑戦したようです。このように、収穫した野菜を使って触覚や味覚、視覚で感じる時間も大切にしています。

子どもは自然と関わる中で、見るものや感じることをすべてに興味があり、好奇心が溢れ出しています。私たち保育者も子どもの発見や面白さに共感して大人でありたいと思っています。今、社会全体は人が過ごしやすい環境が整えられ、デジタル機器などに囲まれて生活することが多くなっています。だからこそ、子どもが自然の中で感じたことに私たち大人も気づけるよう、大人自身も自然の中での様々な出会いを大切に、五感を感じる時間を作りながら大人の感覚も磨きしていきたいと思えます。